



測定随時受付中

ちくりん舎は、行政から独立して放射能汚染を監視・測定、情報発信する市民団体・個人の共同ラボです。

市民放射能監視センター

●共同ラボ & 事務所

〒190-0181

東京都西多摩郡日の出町

大久野 7444

●電話 & FAX

042-519-9378

●電子メール

lab.chikurin@gmail.com

目次

- 総会が開かれました 1
- ミレーンさんら来日 3
- 測定結果 6
- ちくりん舎会員紹介 7
- 報告集ができました 8

ちくりん舎の総会が開かれました

5月22日、立川市女性総合センター・AIMで、ちくりん舎の第3回総会が行われました。

総会に先立ち、「いわき放射能市民測定室 たらちね」の鈴木薫さんから「たらちね」の現状とベータ線測定の取り組みについてご報告をいただきました。(後半記事参照)

その後、ちくりん舎会員の活動報告として、「内部被ばくを考える市民研究会」の川根眞也さん、「NPO法人 R.I.La」の伊藤教行さんから活動報告があり、有意義な意見交換が行われました。

< 2015年度の活動 ～ゲルマニウム半導体測定器2台体制～>

総会では、議案書に沿って最初に、2015年度の活動状況が報告されました。2015年度のちくりん舎の大きな課題は「ゲルマニウム半導体測定器2台体制の確立と長時間測定の低廉化」でした。昨年7月から予定通りに2台目のゲルマニウム半導体測定器の運用が開始されました。ゲルマ2台化のために特別寄付を募り、41個人5団体から107万円の寄付がありました。2台化によりオペレータの作業効率が良くなったことなどもあり、10月度からは長時間測定(4時間以上)の測定

料金の値下げ(約2割)が実現しました。また、ちくりん舎として特別に力を入れている、尿検査とリネン吸着法による大気中粉塵の測定については特別料金体系となりました。

< 第3回シンポジウム～原発事故被害者の現状に焦点～>

情報発信の面では、第3回目となったシンポジウムが約100名の参加を得て、盛況裡に行われました。「原発事故被害者の今を知る ～避難先から・被災地から～」と題したシンポジウムは、福島原発事故5年の今、原発事故そのものを「なかったこと」にするかのような動きが強まる中で、大変重要で中身の濃いものになりました。

この内容をより多くの人に伝えるため、シンポジウム報告集が発行されました。報告集は1部500円で頒布中です。(最終頁参照)



総会の様子

＜2016年度計画—会員相互の連携で調査監視と発信力の強化を＞

昨年度はゲルマ2台化など、ちくりん舎の「ハード面」での強化だけでなく、「ソフト面」での発展もありました。会員が単にちくりん舎へ測定を依頼するだけでなく、会員相互の連携が出来、共同プロジェクトが進んでいることです。尿検査やリネン吸着法による大気中粉塵の放射能測定に加えて、多摩川流域の汚染調査、南相馬20ミリ基準撤回裁判支援など、多方面でちくりん舎を中心とした相互連携が進んでいます。

社会全体では、残念ながら福島原発事故による深刻な影響を隠し、事故そのものを「なかったこと」にするような動きがますます強まっています。そうした状況の中で、ちくりん舎の役割はますます重要になってきています。2016年度のちくりん舎の基本方針として「汚染状況と健康影響の調査監視と発信力の強化」がうたわれました。

ちくりん舎のスタッフ一同は、この方針のもと一層努力してゆく決意をあらたにしております。会員、賛助会員やご支援者の皆様にもご支援をよろしくお願ひします。



お母さんパワーがリードする「いわき放射能市民測定室 たらちね」

第3回総会に先立ち、認定NPO法人いわき放射能市民測定室「たらちね」の鈴木薫さん（事務局長）に講演をお願いしました。「たらちね」は福島県いわき市にあり、地元のお母さん方を中心に運営されています。最近ではベータ線を測れる測定器を導入して食品のストロンチウムの測定を行ったり、福島県の検査とは別に、独自に甲状腺エコー検査を行ったりと、ダイナミックな活動をされています。お忙しい中、立川市までお出でいただき貴重なお話しをうかがいました。

鈴木薫さんは、「たらちね」の最近の活動状況からお話をされました。

「たらちねの」ホールボディカウンター受検者は昨年度に比べ倍増しましたが、そのほとんどは除染関連の作業員であり、また最近では20代、30代の除染作業員の方が受検されているようです。

ガンマ線測定では食材の測定が約6割で、それ以外では掃除機のゴミ、土壌、空気中ダストなどを測定しています。特に、掃除機のゴミの測定に対する関心は高く、いわき市以外にも関東各地から依頼があったとのこと。甲状腺エコー検査も医師と連携して独自に行っており、いわき市をはじめ福島県

内で1400人、福島県外で約500人の検査を実施しています。

2015年度には、ベータ線が測定できる機器を導入して「ベータラボ」を開設し、すでに150検体近くを測定しているそうです。ベータ線測定により食品中のストロンチウムや組織結合型トリチウムを測定しています。「ベータラボ」では、大学や研究所並みの設備をそろえていますが、一方で、家庭用の電子レンジ用圧力なべを自由水トリチウムの測定で利用するなど、お母さんならではのアイデアも活かされています。

ベータラボの開設には資金もかかり、理事会では躊躇する向きもあったようですが、支えるお母さんたちの「是非ともやりたい」との熱意で実現したそうです。

子どもの健康を守りたいというお母さんパワーに、改めて驚かされました。



お話をする鈴木薫さん